目次

はしがき……i
凡例……viii
第一章　「いろは歌」の研究史……1
第一節　「いろは歌」とは何か……1
第二節　『江談抄』所載の「いろは歌」空海説……10
第三節　中世から近世前期にかけての「いろは歌」空海説……17
第四節　『凌雲集』に基づく「いろは歌」空海説……32
第五節　村田春海の『字説弁誤』……44
第六節　黒川春村の『碩鼠漫筆』……55
第七節　榊原芳野の『文藝類纂』……66
第八節　大矢透の『音図及手習詞歌考』……72
第九節　高野辰之の『日本歌謡史』……87

第十節　岡田希雄の「色葉歌の年代に関する疑問」……96
第十一節　亀井孝の「いろは歌」四十八字説……110
第十二節　「とがなくてしす」の問題……118
第二章　「いろは歌」の暗号を読み解く……139
第一節　『古今和歌集』所載の「同じ文字なき歌」……139
第二節　「いろは歌」の中に詠み隠されていた言葉……144
第三節　「む」と「ん」の区別の存在……158
第四節　「いろは歌」の暗号技法と和歌の言語遊戯……169
第五節　「いろは歌」の暗号技法と漢詩の声律……183
第六節　ア行の「え」とヤ行の「え」の区別の存在……191
第七節　混本歌としての「いろは歌」の暗号……202
第三章　「いろは歌」の暗号語彙の年代観……241
第一節　よみぢ（黄泉路、冥途）……241

第二節　あさて（明後日）……247
第三節　わがをる（我が居る）……259
第四節　つねゐ（常居）……267
第五節　とがなくてしす（咎無くて死す）……273
第六節　むくろ（軀）……319
第七節　ゆゑとしれ（故と知れ）……330
第八節　暗号語彙のアクセント……334
第四章　「いろは歌」成立の時期……359
第一節　大伴家持の挽歌……359
第二節　劉希夷の「代悲白頭翁」……368
第三節　小野小町の和歌……382
第四節　宇多天皇主催の『寛平御時后宮歌合』……389
第五節　寛平五年成立の『新撰万葉集』……412
第六節　「いろは歌」の成立はいつ頃か……456

第五章　『古今和歌集』の成立事情……477
第一節　『古今和歌集』完成奏上の時期……477
第二節　『古今和歌集』奉勅の時期……487
第三節　『土佐日記附註』所引の『古今抄』……559
第四節　『古今和歌集序聞書三流抄』所載の年齢伝説……594
第五節　『和歌体十種』は偽書か……631
第六章　物部良名の実像を探る……671
第一節　もののべのよしなの漢字表記……671
第二節　『古今和歌集』に見られる物部氏の系譜……717
第三節　『古今和歌集』の構造から読み解く物部良名の事蹟……736
第七章　「いろは歌」伝来の痕跡……801
第一節　眞寂法親王の『梵漢相対抄』……801
第二節　天慶六年度の『日本紀竟宴和歌』……824

第三節　源為憲の『口遊』……836
第四節　花山法皇の述懐歌……856
第五節　紫式部の『源氏物語』……887
第六節　曾禰好忠の伝承歌は物部良名の作品か……910
あとがき……926
附録　――パングラムの書誌的事項――……931
人名索引……938
著作索引……949

第一章　「いろは歌」の研究史

「いろは歌」を作ったのはいったい誰か。これは国語学史上、最大の謎の一つである。「いろは歌」の作者は、古来、弘法大師・空海（七七四～八三五）であると言い伝えられてきた。この説を最初に唱えた人物は、平安時代中期の学僧、恵心僧都・源信（九四二～一〇一七）であったらしい。この説は、平安時代後期の漢学者・大江匡房（一〇四一～一一一一）の談話集『江談抄』の中に書き留められている。その後、鎌倉・室町時代を通じて、この古い「いろは歌」空海説が支配的であった。江戸時代後期になると、日本最古の勅撰詩集『凌雲集』に基づく新しい「いろは歌」空海説が唱えられ、この説は一時大いに流行した。しかし、その一方で、村田春海（一七四六～一八一一）、黒川春村（一七九九～一八六六）、大矢透（一八五一～一九二八）、岡田希雄（一八九八～一九四三）らの地道な研究により、「いろは歌」空海説を否定する学説が提唱されて今日に至っている。この章では、「いろは歌」の謎解きを行なう前に、「いろは歌」とは何であり、「いろは歌」の研究はどのような沿革を経て現在に至っているかを、過去の研究者たちが残した原典に基づきながら、全十二節に分けて解説してみたい。

第一節　「いろは歌」とは何か

「いろは歌」は、四十七種類の仮名文字を使って構成された「同じ文字なき歌」である。日本語の異なる音節を表

わす仮名文字をひとそろえ含んでいるところから、日本語の**パングラム**（pangram）として知られている。歌の中に同じ文字が一度も出て来ないところから、日本語の字母表として、辞書の索引として、また読み書きを学ぶときの手習い詞などとして、広く利用されてきた。

現存最古の「いろは歌」は万葉仮名で書かれたもので、**承暦本『金光明最勝王経音義』**（大東急記念文庫蔵、重要文化財）という仏教書の冒頭に載せられているものである（口絵一）。この書物には、平安時代後期、白河天皇（一〇五三～一一二九）の御世、承暦三年（一〇七九）四月十六日に抄了した旨の奥書があって、その正確な成立年時を知ることができる。今、そこに所収の「いろは歌」の全文を挙げると、次の通りである。

以伊　呂路　波八　耳尓　本保　へ反　止都
千知　利理　奴沼　流留　乎遠　和王　加可
餘与　多太　連礼　曽祖　津ッ　祢年　那奈
良羅　牟无　有宇　為謂　能乃　於　久九
耶也　万末麻　計介気　不布符　己古　衣延　天弖
阿安　佐作　伎幾　喩由　女馬面　美弥　之志士
恵會廻　比皮非　毛文裳　勢世　須寸

この「いろは歌」は、一行に七文字ずつ、全七行に分けて万葉仮名で書かれているけれども、全体で四十七文字分しかないため、文字数が不足して、最後の行のみは五文字しかない。これは、平安時代の後期に「いろは歌」がどのような姿で伝承されていたかを窺わせる、きわめて貴重な資料である。この資料が今に伝存しているおかげで、

①「いろは歌」の成立は承暦三年（一〇七九）以前に遡ること。
②初期の「いろは歌」は一行に七文字ずつ、七行書きで表記されていること。
③初期の「いろは歌」は万葉仮名の字母表として利用されていること。
④初期の「いろは歌」は仏教にかかわりをもっていること。

などの諸事実を確認することができるのである。

今、その万葉仮名を通行の平仮名に書き改めると、次のようになる。

い　ろ　は　に　ほ　へ　と
ち　り　ぬ　る　を　わ　か
よ　た　れ　そ　つ　ね　な
ら　む　う　ゐ　の　お　く
や　ま　け　ふ　こ　え　て
あ　さ　き　ゆ　め　み　し
ゑ　ひ　も　せ　す

平安時代末期の学僧、興教大師・**覚鑁**（一〇九五～一一四三）は、このような「いろは歌」に漢字の和訓を振り当てて、日本最初の「いろは歌」全文の註釈書を完成させている。覚鑁の「いろは歌」の註釈書には二種類あって、それぞれ